

# 緑野

札幌市立札幌中学校 学校だより

令和元年度 第12号(434号)

令和元年(2020年)1月14日発行

発行責任者 遠藤 壽廣

<http://www.satsunae-j.sapporo-c.ed.jp>



## 希望に満ちた一年に

校長 遠藤 壽廣

冬休み中は充実した毎日を送ることができたでしょうか？ いよいよ今日から令和元年度3学期、1年のまとめの学期が始まりました。

3学期はどの学年にとっても、成果を問われる学期です。この1年間は、必ずしも上手くいくことばかりはなかったと思います。多くの人は途中でめがいたり苦しんだりしてきたと思います。勉強についても、学級活動や部活動についてもそうだったと思います。でも、そんな大変な思いをしている方が、最後に成功した時の喜びは大きいものです。1・2年生はこれからの2ヵ月半、3年生は2ヵ月、一日一日「今日の自分はどうだったのか」と振り返り、成果を実感できる学期にしてほしいと思います。

さて、1月2日・3日に行われた第96回箱根駅伝(正式名称は東京箱根間往復大学駅伝競走)を見ましたか？ 青山学院大学(以下、青学大)が2年ぶり5度目の総合優勝を果たしましたが、この優勝には様々なドラマがあったようです。

ドラマ1：青学大陸上競技部の長距離ブロックでは、2年生の終わりの時点で一定のタイムを記録できなければ選手としては継続できないシステムがあります。選手として引退勧告を突きつけられた学生は、マネージャー等に転身して部に貢献する、あるいは自ら部を去っていくという厳しい道を選択しなければなりません。実は今回、引退勧告を受けた選手が2名選ばれていました。監督に願い出て、諦めず相当の努力をしたようです。

ドラマ2：2年ぶりの総合優勝とお話しましたが、青学大は昨年の優勝を逃す前は4連覇を果たしている強豪校です。原監督は自主性を重んじる指導方針のようですが、5連覇を果たせなかった昨年、覚悟が見られない最上級生に、自主性を重んじる指導方針を1度捨て鬼になったようです。

強くなる過程は険しく、3月に勉学、生活態度が乱れていた3人が陸上競技部をやめました。監督が「傍観者になるな」と選手たちに言い続け、選手たちも意見をぶつけさせた結果、「学業をおろそかにするような人と一緒にやりたくない」という意見も後輩から出されたようです。また、6月には“1軍”ではない寮で、規則で禁じられている飲酒が発覚しました。当事者は手本になるべき4年生でした。陸上で強くなるという決意の欠如に、監督は「こんな4年生にはついていきたくないよね」と厳しい言葉を並べました。主将は「一緒にやりたい気持ちもあったが、厳しくならなければ箱根を取れない」。話し合いの末、部から離れてもらう結論となりました。もちろん過去にも退部者はいたようですが、強豪になり、4年生が短期間に4人もやめるのは初めてのようです。

自分の夢を叶えるには、苦しいことにも耐え、我慢ができる力を身につけていくことが大切だということなのではないでしょうか。

3年生は明日から期末テスト、2月に入ると推薦受検者の面接試験(13日)、私立高校の入学試験(A日程：18・19日、B日程：21・22日)、そして、最後に公立高校の選抜学力検査(3月4日)と続きます。一つ一つが一人一人の人生を方向づける大切な試験になります。今が最も苦しい時だと思いますが、これを乗り越えればこれまでとは違った全く新しい世界が見えてきます。青学大の陸上競技部の学生のように、しっかりと夢や目標をもって進んでいきましょう。そうすれば希望に満ちた一年間がまた開けてきます。我慢と粘り強さで今年も素晴らしい年にしていきましょう。

### 保護者・地域の皆様へ

末筆になりましたが、今年も皆様のお力添えをいただきながら、生徒の健やかな成長のため、教職員一同、誠心誠意、努力をしてまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。